

俳句塾入選句一覽

宇多喜代子 特選

32 秋の蝶葉裏に開く閉づ開く

松山市 ひでやん

42 西の坂いつぱいに秋夕焼

大阪府 水濱義子

49 新涼や尺塩美しく魚に降る

静岡県 梶 まり子

70 風通る方丈清水句ひけり

神奈川県 岡崎 淑

72 夏の霧遍路のうしろ遍路くる

高知県 弘田幸子



宇多喜代子 入選

6 万緑の川風浴びて秘境駅

岐阜県 夏 柿

29 大寒の橋老犬の吹かれ行く

松山市 大堀 澄子

8 現身の透き通りゆく星月夜

今治市 立 志

52 嵐去り四方の窓より夏の風

大阪府 ゆ う 一

14 取締役辞任届や更衣

愛知県 片岡 嘉幸

58 断りのみじかき文や青山椒

徳島県 神野 喜美

18 漆黒の一遍像に若葉光

松山市 宮田 頼行

83 煙草火の櫓にいくつ踊の夜

松山市 正 人

26 霧立ちてハイウェイバスの飛ぶ峠

松山市 大内よう子

86 鶴嘴の嘴の錆びゆくまま月光

松山市 小池 亀城

黒田杏子 特選

13 爆心の固き地面の蟬の穴

広島県 若宮直美

18 漆黒の一遍像に若葉光

松山市 宮田頼行

46 空の香をたたむ日傘や旅の宿

松山市 大森恵子

50 背の吾子をジャンプであやす夏の母

大阪府 松下洋介

60 縄文の子どもの墓に女郎花

京都府 北垣みどり



黒田杏子 入選

17 朝顔の種を交換する手紙

高知県 矢野貴子

32 秋夕焼僕は魔法は使えない
松山市 ひでやん

29 大寒の橋老犬の吹かれ行く

松山市 大堀澄子

55 沈下橋底の笠照り青嵐
高知県 木俵奈美

66 残暑閉じ込めたままの電話ボックス

広島県 睡花

12 避難所の段ボール壁虫の声
広島県 若宮實

85 決壊を逃れし川に鮎を追う

松山市 土居富美子

6 さざ波に母の名の船星月夜
岐阜県 夏柿

87 広島忌被爆ピアノの白き音

松山市 南行ひかる

40 伽耶琴の音アリランの唄紅木槿
大阪府 橘雅子

夏井いつき 特選

7 ところてんなにがあらうといのちがけ

大阪府 橋本 薫

27 白き蛾のきゆうきゅと鳴くや仄明り

香川県 宮武 美香

37 向日葵の骨をきのふに水葬す

和歌山県 鯨木ヤスカ

54 空豆や今日もなんでもなく呼吸

岡山県 藤原美恵子

84 警戒警報二十三時の水蜜桃

松山市 加根 兼光



夏井いつき 入選

13 広島忌水道水の生温い

広島県 若宮直美

17 朝顔の種を交換する手紙

高知県 矢野貴子

35 大西日椅子は悲しみ受け止める

大阪府 中山月波

36 シャンパンの薫たからか菊日和

大阪府 としなり

47 遠雷や左下5を抜髓す

滋賀県 湖雪

72 夏の霧遍路のうしろ遍路くる

高知県 弘田幸子

86 鶴嘴の嘴の錆びゆくまま月光

松山市 小池亀城

92 八月のサイレン動かぬグラウンド

今治市 八木ふみ

93 朝まだきあおむけの蟬とびこえて

松山市 みちこ

94 蔓草の露はむ白き山羊の宿

東京都 依田百合



宇多喜代子 入選



黒田杏子 入選



夏井いつき 入選



吟行会 入選句一覽

は特選の中で一番良い句です

宇多喜代子 特選

11 秋日和一遍像の猫背かな

松山市 訛 弟

28 兜太氏の評受けし日よ道後秋

京都府 億 みき

40 秋空や草田男の墓に洗礼名

兵庫県 野 ばら

43 湯の宿の窓窓吐き出す夏布団

松山市 あね ご

80 三年待て庵の桜そよぎたる

松山市 藤田 敦子



宇多喜代子 入選

21 虫の糞ころころと宝巖寺

広島県 若宮直美

69 いなづまをとらへ一遍の眼の赤し

松山市 きさらぎ恋衣

29 一遍の真筆丸し百日紅

松山市 前野里美

74 秋雨は一遍の足音である

松山市 森貞 茜

34 銀杏みっしり敬語のきれいな少女の目

三重県 奥山和子

73 もさもさの鉄筋絡む秋の空

東京都 ヒカリゴケ

45 無防備な国宝に汗落ちそうに

松山市 大内よう子

82 上人坂の穂芒女学生に触れ

神奈川県 岡崎 淑

60 伊月庵焙じ茶含み秋の風

大阪府 水濱義子

88 背の下に尻つくねんと一遍忌

岡山県 藤原美恵子

黒田杏子 特選

17 一遍は留守銀杏をふたつ踏む

松山市 渡部秀美

37 寶巖寺火伏銀杏の実拾ふ

香川県 中山満佐美

54 伊月庵黄色の花はへちまなり

松山市 久保清香

92 穂芒は一遍なのか夫なのか

京都府 渡辺かおる



74 秋雨は一遍の足音である

松山市 森貞 茜



黒田杏子 入選

6 秋興や師は居ず語る宝巖寺

松山市 土居富美子

38 木の葉舞う一遍の風宝巖寺

大阪府 柰保美智子

11 秋日和一遍像の猫背かな

松山市 訛 弟

52 一遍上人立てり涼しき闇の中

※原句：一遍像涼しき闇の中立てり
松山市 小川一磨

28 兜太氏の評受けし日よ道後秋

京都府 億 みき

64 日焼して子遍路父の肩車

大阪府 三枝桂子

32 昼の虫湯釜の縁を一周り

徳島県 生島春江

91 鴉鳴くや眦裂けた像拝む

松山市 曼珠沙華

35 太陽と我のはざまを黒揚羽

東京都 めいおう星

88 背の下に尻つくねんと一遍忌

岡山県 藤原美恵子

松本勇二 特選

21 虫の糞ころころころと宝巖寺

広島県 若宮直美

29 一遍の真筆丸し百日紅

松山市 前野里美

34 銀杏みっしり敬語のきれいな少女の目

三重県 奥山和子



85 茂りの真中青空が傾れ込む

松山市 中山寛太

88 背の下に尻つくねんと一遍忌

岡山県 藤原美恵子



松本勇二 入選

3 はたた神連れ海渡る伊予路かな

大阪府 竹中光子

9 秋の野や石碑の文字の彫り薄き

松山市 熊縫まゆ

11 秋日和一遍像の猫背かな

松山市 訛弟

41 一行に遅れおくれの秋暑かな

徳島県 神野喜美

42 宝巖寺捨てる心にすすき揺れ

松山市 二宮由紀恵

52 一遍像涼しき闇の中立てり

松山市 小川一磨

70 花芒痛い痛いのとんでゆけ

大阪府 橋本 薫

76 木犀や上人坂の列解かれ

松山市 武田 歩

77 秋天に腕をとおせし車夫の影

松山市 花 香

81 色宿に蜂の巣朽ちてゆく秋日

西条市 鯛 飯

87 習はしと聞けども猛し秋祭

愛知県 片岡嘉幸

夏井いつき 特選

17 一遍は留守银杏をふたつ踏む

松山市 渡部秀美

21 虫の糞ころころと宝巖寺

広島県 若宮直美

81 色宿に蜂の巣朽ちてゆく秋日

西条市 鯛飯

85 茂りの真中青空が傾れ込む

松山市 中山寛太

88 背の下に尻つくねんと一遍忌

岡山県 藤原美恵子



夏井いつき 入選

32 昼の虫湯釜の縁を一周り

徳島県 生島春江

74 秋雨は一遍の足音である

松山市 森貞 茜

34 銀杏みっしり敬語のきれいな少女の目

三重県 奥山和子

78 青月や色なき朝顔は造花

大阪府 天野姫城

62 まんぢゅうのほろりと秋の初風と

松山市 ひでやん

80 三年待て庵の桜のそよぎたる

松山市 藤田敦子

63 風待ちの桜もみじとなりゆくよ

松山市 加根兼光

86 リアドアに秋暑の坂の傾きぬ

松山市 山内那南

69 いなづまをとらへ一遍の眼の赤し

松山市 きさらぎ恋衣

91 鴉鳴くや眈裂けた像拝む

松山市 曼珠沙華



宇多喜代子 入選



黒田杏子 入選



松本勇二 入選



夏井いつき 入選